



# 建築コーディネーターが語る。

## 欧米に学べ！ ～日本の家づくりを変えろ～

文・村瀬雄三



フレンチカントリーのインテリア(東郷町 N邸)

### 日本の家族が抱える問題

## 今

の日本は、諸外国と比べて豊かと言われています。でも、そこに暮らしている皆さんは、本当にそう感じていますか。確かに収入は、多いかも知れませんが、豊かじゃない。それは、何故でしょうか。

第一に上げられるのが、心の豊かさです。夫婦共働きの世帯が増えてきています。その結果、家族でコミュニケーション出来る時間が短くなってきています。家族と言いつつ、全く別々の生活を送っているのが現状です。それは、子供たちも自分の個室でテレビを見たり、ゲームをしたりして過ごす時間が増えて、リビング

と一緒に語らうことをしなくなったことにも大きな原因であると思います。家族が幸せになる為に家を建てても、家族の心はすさんでしまうような状況が、今の日本の家庭で生まれているのです。

次に豊かさを実感できない要因は、生活以外の費用の増大です。諸外国に比べて学力が低下しているのに、教育費は膨大になってきています。また、収入の割に、年間に使う医療費が増えてきていると思いませんか。それは、アトピーに代表されるアレルギー疾患や花粉症といった30年前では殆ど見られなかった病気が一般化したからなのです。また、最近やたらに精神的な欠陥をもった若者が増えています。これらは、大気汚染などの外的要因もあると思いますが、食物摂取や室内環境といった内的要因が大きいように思います。

近年は、大量生産型の食品を使わないスローフードが流行していますが、同様に室内も新建材や合板を使わない自然素材の内装にすることが必要なのではないでしょうか。でもそれは、昔ながらの生活に逆行しろということではありません。今の生活スタイルに合ったデザインで出来た自然素材を使うというものです。

また、今の日本の住まいの間取りは、どうでしょうか。個人のプライバシーばかりを重視して、家族団らんといったパブリシティを軽視したような従来の規格化された間取りではいけません。別の機会があれば、また詳しくお話ししたいと思います。ですが、間取りの中にコミュニケーションを取るための仕掛けが必要なのです。見せかけだけの健康住宅にだまされしないで、本物の材料を見極める。そして、家族との一体感が醸し出されるようなデザインで家づくりをする時代にきています。

### 愛着のもてる家づくり ～歴史に残る建物を～

## 今

て、次に北米での住宅事情について、皆さんにもお話ししたいと思います。一般に北米では、資産価値の高い住宅は、(1)デザインの良さ、(2)機能性、(3)性能の良さ、で決まるのです。機能や性能は、リフォームすれば改善出来ますが、家のデザインは、根本的に回復することは難しい。だから日本では、まだ家を使えるにもかかわらず、築20～30年で解体されてしまうのです。

また、こうした状況を作ってしまった元凶は住宅金融公庫であると思います。それは、公庫が住宅のデザインや価値に対して融資を行うのではなく、建て主の支払能力に対して融資するので、収入があればどんな住宅だろうと問題にしないのです。今後、日本の住宅をよくしていく決め手は、「歴史が残りたいと思うようなデザインの家を造ることだ」と思っています。

当然、家は生活の場ですから、使い勝手の手いい家であること、使いやすい設備で

あること、性能のいい家であることは重要なことですが、今の日本の住宅に使われているものには、決定的に違うと言える性能差はないのです。

勿論、我々は自然素材にこだわらなければいけないと思いますが、それは性能の違いというより、もつと生理的な、感覚的な違いだと思っています。生理的な要素は、全ての要素に優先されなければなりません。つまり、家づくりにとって、大前提であるべきです。

その上で、普遍的な美しさを追求していくことが、家をデザインする為には必要なのです。10年後、プームが去っていった古ぼけたデザインになってしまつては、価値ある財産にはなりません。普遍的な美しさこそが、住まいに対する愛着の根源なのです。

欧米では、古くてメンテナンスの行き届いた建物ほど、価値が高いのです。それは、新築建物の価格をしばしば上回る程です。それは、古い建物は、今手に入らないような良いものが建材として使われているということ、現代では手に入ることの出来ないデザインであるというこ

とに他なりません。手を掛けたくなくなるような愛着のもてる家づくりは、今大手メーカーが展開している大量生産型・規

格型の家づくりからは、決して生まれえないのではないのでしょうか。皆さん、歴史に残る建物を造りましょう！



二軒並んだレンガ積みの家(平針 H邸)

## 家にも思いやりを

# 戦

後の日本の住宅事情は、高度経済成長によって大きく様変わりしました。誰もが手に入れられるように安くて同じものを、人口の増加に比べられるように建築スピードを早くして、結果30年経てばまたお金をかけて建替えなければならぬ、そんな仕組みを作ったと言えます。

そうした家づくりは、家に対する意識も変えてしまいました。昔の家なら、何十年かに一度、家族ばかりか地域総出で屋根の葺き替えをしました。全てのメンテナンスは、自分で何とかやるのが普通でした。今で言うDIYです。

でも今の日本の家は、外壁は10年で塗り替えなければなりません。室内の壁は、縮んだり汚れたりするクロスなので、10〜15年で貼り替えになります。でもそうした仕事は、プロにお願いする以外に方法がありません。お願いするのですから、当然、費用も余分にかかります。それならまだしも、実際には住宅メーカーの殆どが後々の十分なメンテナンスをしてくれない現状があります。「売ればな



After

Before

し」のこんな状況でどうして家が長持ちするでしょうか。

何故、自分でメンテナンス出来る素材で家を造らないのか、または汚れたりしても、それが味とか趣とかいったものになる素材で家を造らないのか、疑問です。アメリカの映画に出てくるように、日曜日に子供たちと一緒にお父さんが室内の壁をペンキで塗り直す。そこで、家族



After

Before

のコミュニケーションが生まれる。そういった生活に豊かさを感じる。この出来る家づくりが求められているのではないのでしょうか。

また、日本の住宅は、夜になると部屋の隅々まで明るくするのが一般的ですが、間接照明を使って光と影を上手に使い分けて、まるでどこかのカフェにいるような豊かな雰囲気を作ることが何故できないのか。



築85年のカナダの家(カナダトロント)

ないのでしょうか。日本の家づくりも欧米のような「豊かさ」を実感できる新たな時代に入っていかなければダメなのです。家をデザインアップすることで、住み手は必ず家への愛着を持ち続けることが出来るようになります。自ら手を入れて住もうと努力するはずですが、欧米のように古い家が新築の家より高い価格で取引されるような時代が来るはずですが、その時、あなたの家は、売買するかどうかは別にして、評価される家になっているのでしょうか。

## 家は成長するもの

「財産を守ろう」

# 家

を創ろうと思っている方の多くは、今の家族構成や年齢を基準にしてプラン

を考えます。でも、それは間違いです。例えば、車を買うことを想像してみてください。小さな子供2人とご夫婦なら、ワンボックスのワゴンを買って家族皆でキャンプやピクニックに行くのではないでしょ



After

Before

うか。子供が大きくなって、デートに行くようになれば、もう一台スポーツカー1台がいるかも知れません。そして、結婚していなくなったら、夫婦2人で乗れるセダンを買うでしょうね。

実は、家も同じです。その時々で変化しなければなりません。ただやっかいなのは、家は車と違って買い換えるという習慣が日本人にはないのです。ですから、家のプランを将来の家族に合わせられる



After

Before

ようにしておくか、将来簡単に改装出来るように計画しておく必要があります。家を買換える習慣のあるアメリカ人でも、改装は頻繁に行われます。それは、買換えた家を自分の好みや生活スタイルに合うようにするという目的と、よりよい家に造り変えることで付加価値を付けて、次に買換える際に高く売ろうという目的からです。リフォーム(北米ではリノベーションと言います)は、一種の投資なのです。日本のように無計画に増改築された家は、かえって価値を落としてしましますが、欧米のように一層デザインアップされるなら、きっと日本人でも長く愛着をもって暮らしていけるのではないのでしょうか。

各世代において、日本では必ず一度は古い家を壊して建て替えます。その時、ほとんどの人は、30年以上の長期ローンで組むこととなります。つまり、30年で壊してしまいうようなものに、あなたの全財産をつぎ込んでるのが現実です。欧米では、そんな無駄なことはやりません。第一世代で家を創ったら、第二世代ではそれを維持・メンテナンスしながら、余ったお金で別荘を創ります。そして、第三世代では、それらを更に維持しながらポ

トを買うのです。でも、彼らの多くは決して日本人よりも収入が多い訳ではないのです。財産を使い切る日本人と財産を受け継いでいく欧米人、あなたほどちがが賢いと思いませんか。

財産の浪費こそ、日本経済の間違った仕組みだと気付いたあなたなら、そこから脱却して新たな家づくりができるはずです。ローコストのマジックは、日本人を貧乏にすることを理解して下さい。



昭和37年、名古屋市生まれ。愛知大学法経学部経営学科卒業。現在、有限会社ホームメイド 代表取締役。大学卒業後、三菱商事株式会社名古屋支社にて宇宙航空関係の輸入に携わる。その後、工務店経営の友人に誘われたのをきっかけに、建築業界に足を踏み入れる。営業活動の傍ら、自然素材を使った家づくりを研究。商社での経験から、安価で高品質な北米産の素材を直接買い付けることを始める。また、実際に建てた方のお宅訪問も毎年2回実施し、メンテナンスの重要性を訴え続ける(現在も継続中)。また、家づくりのきっかけをもってもらえるように、各種セミナーや見学会も随時開催。

●連絡先  
手づくり輸入住宅のホームメイド  
愛知県日進市岩崎台4-905  
TEL 0561-75-4087 FAX 0561-75-4088  
【URL】 <http://www.homemadeco.com/>  
【E-mail】 [info@homemadeco.com](mailto:info@homemadeco.com)

手づくり輸入住宅のホームメイド  
建築コーディネーター  
村瀬 雄三【むらせ ゆうぞう】